

概要報告

実施期日	令和8年8月5日（水）
部会名	小学校 図画工作部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
（含む個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実）

テーマ

『コーネル式ノートの活用を通じた、発想と振り返りの可視化』

提案概要

1. 児童の実態と育成したい資質・能力

「1回で完成させないといけない」「書き直しは失敗」といった思いを持つ児童が多いという実態から、図工に対する心理的ハードルを下げるために「コーネル式ノート」を取り入れた。技術に重点を置くのではなく、自らの作品を振り返ったり、問いを見出したりする能力の育成をねらった。

2. 実践の内容

第2学年「すきなもののなあに」

本画（画用紙）に向かう前に、思考を整理・発散させる場として「アイデアスケッチ」「コーネル式ノート」「下描き」のステップを導入した。

【具体的な手立て：ノートの活用プロセス】

- ・アイデアスケッチと設定の言語化
- ・各段階における「学びの調整」
- ・対話とリフレクションの記録

【児童の変容】

- ・手が止まる児童が減った。
- ・アクシデントを発見とみるようになった。
- ・自分の行動をモニタリングするように取り組むようになった。（メタ認知）
- ・対話の内容が深まった。

3. 成果と課題

○重層的なプロセスによる思考の深化

アイデアスケッチ→ノートでの想像→振り返り→下描きというステップを繰り返す中で、児童の振り返りは回を追うごとに具体的になった。

○多様な変容の姿

- ・対話によって友だちの作品の良さに気づき、それを柔軟に取り入れ自分の表現を広げる姿が見られた。
- ・プロセスを重ねる中で、当初とは全く異なる新しいアイデアにたどり着く姿が見られた。

○物語の具体化

- ・形や色、構図といった造形要素だけでなく、自身の思いや物語が自然と絵の中に現れ始めた。

○喜びの表出と「語り」の深化

- ・慎重に細部を詰めたり、時には大胆に筆を動かしたりしながら、想像の世界が目の前に現れる喜びに浸る姿が見られた。また、児童は自分の描いた「世界観」を自然な言葉で、豊かに語れるようになっていた。

質疑応答

特になし

協議の柱及び協議概要

○協議の柱

「自らの学びを自覚する振り返り」の在り方について

○協議概要

●振り返りについて

- ・描いて終わりというわけではなく、メタ認知できるようになっていることや、他者との交流で、より学びが深まっているという点が良い。
- ・他者と比べて作品を描くのではなく、自分の作品と向き合ってより良い物にしていこうという姿勢を大切にしたい。

●苦手児童への配慮について

- ・文字が苦手な児童・・・思いを話してもらって想像を広げさせた。
- ・イメージが苦手な児童・・・生き物や乗り物など興味があるものから広げさせた。

●コーネル式ノートを活用について

- ・作品の完成度が高く、2年生とは思えない丁寧な色の塗り方をしていることから、コーネル式ノートで振り返ることの良さが実感できた。
- ・ノートにかく時間の確保が難しい。
- ・下描きなしで描く良さもある。
- ・指導者が変わっても継続することでより効果が続くのではないか。

●その他

- ・小、中で提案者の授業を参観し合うことで学びの系統性ができた。

まとめ概要

2年生の「すきなものなあに」の授業は、主体的・対話的で深い学びを意識した取組であった。また、ノートの変化や、悩みの跡が思考のプロセスとなり、教師も児童の変化を価値づけやすくなった。児童の「失敗してもいいからやってみた」「友達のアイデアを聞いてもっと楽しくなった」という振り返りから、本実践を通して、児童が主体的な学びを行っていたということがわかる。

行動を起こす力、他者との交流、好奇心を大切にすることなど新学習指導要領も意識した内容となっていた。是非次の学年でも継続して意識することで、より児童の学びが深まると考えられる。